

平成22年5月20日現在

研究種目：基盤研究B

研究期間：2007～2009

課題番号：19330194

研究課題名（和文） 道徳教育の効果的な教育方法の開発

研究課題名（英文） Development of effective teaching methods of moral education

研究代表者

千葉 胤久 (CHIBA TANEHISA)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90333765

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、小・中学校教員が抱える道徳教育推進上の諸課題に対応しうる教育方法を構想することである。アンケート調査、および道徳授業の指導案分析の結果、多くの教員が、価値の主体的自覚を目指す指導法自体に困難を感じていること、また、複数の道徳的価値が混在する資料の取り扱いに困難を感じていることが分かった。本研究によって明らかとなったのは、前者の困難さに関しては、人間の弱さへの共感を重視した授業を構想することが重要であり、後者の困難さに関しては、授業の目的に照らして重点をおくべき価値を明確化することが重要であるということである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to identify the tasks involved in promoting moral education that elementary and junior high school teachers have, and to design teaching methods that can cope with these tasks. The questionnaire for teachers and the analysis of their lesson plans for moral education show that many of them find it difficult to teach in itself to cultivate students' awareness of values, and to handle texts where more than one moral values are mixed in. In this study, it became clear that, concerning the former difficulty, it is important for teachers to plan a program that focuses on empathy for human weakness, and that, concerning the latter, it is vital to clarify a value to be emphasized in line with the aim of the program.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	2,300,000	690,000	2,990,000
年度			
年度			
総計	6,000,000	1,800,000	7,800,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：道徳 倫理学 哲学 指導案 教育方法

1. 研究開始当初の背景

(1) 北海道では、友人に依頼して母親を殺

害した稚内市の事件や滝川市のいじめ自殺事件など、子どもによって引き起こされた深

刻な事件があるにもかかわらず、地域によっては道徳教育に拒否反応を示す学校もあることから、道徳教育の有効性を明らかにする必要があった。

(2) 本研究に関わるメンバーは、既に教育委員会、小中学校と連携した道徳教育連携研究事業を展開しており、この事業組織を母体とした研究をさらに展開していくことを目指していた。

2. 研究の目的

本研究は、道徳教育の教育方法の開発を行い、道徳教育がどのような結果をもたらし、子ども生きる力、社会性の醸成に有効かどうか明らかにするものである。

具体的には、北海道内の学校において、道徳授業指導案により授業を行い、当初の目的がどれだけ実現されたか調べ、検証の結果不十分な部分は改善を図り、授業にフィードバックさせる。

また、本研究ではいくつかのテーマを関連させた教育方法を研究し、例えば、「環境倫理」、「生命倫理」と「他者理解」など複数のテーマをつなげて子どもの心をより一層成長させることのできる教育方法を研究する。

3. 研究の方法

(1) 小中学校教員へのアンケート調査

本研究の初年度に、学校教育における道徳教育の課題を明らかにするため、小・中学校の教員を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート調査に協力いただいた小中学校は、北海道内の32校であり、その調査結果から、現場の教員が抱える道徳教育推進上の課題を明確化することができ、その後の研究の方向性を明確にする上での資料を得ることができた。

(2) 道徳授業指導案の分析

北海道内各地の小・中学校の教員に協力を依頼し、研究資料として道徳授業の指導案を提供いただき、指導案分析を行なう。実際に指導案を提供くださった小・中学校は、のべ37校にのぼり、提供いただいた指導案数は、のべ72本になる。これら指導案を精査することを通じて、道徳授業を構想する上での課題を明らかにする作業を行い、それら課題に対応する教育方法の検討・考察した。

(3) 研究成果の公表

研究成果を小中学校の教員へフィードバックするために、現職教員が参加する学会・研究会等の機会を通じて、研究成果を公表する。

①シンポジウムの開催

平成21年度北海道教育大学実践教育学会研究大会第3分科会(2009年12月12日、

北海道教育大学旭川校)において、「道徳教育の効果的な教育方法」をテーマとしたシンポジウムを開催し、研究成果を公表した。

②論文の公表

『北海道教育大学紀要』に2編の論文を掲載し、研究成果を公表した。

4. 研究成果

(1) アンケート調査

本研究の初年度には、学校における道徳教育の課題を解明するために、小・中学校の教職員を対象にアンケート調査を実施した。その調査結果からは、学校現場の教員が抱える道徳教育推進上の課題が浮び上がり、その後の研究方法や内容をはじめ、研究の方向性を明確にする上で貴重な資料となった。

①調査内容

(主な調査内容)

- ・指導者が、道徳教育の充実を図る上での悩みや困難を感じていること
- ・指導者が、道徳的価値を自分のこととして捉えるために重点を置いている指導事項

(主な調査項目)

Q3 道徳教育の充実を図るために、日頃、悩んだり、困難を感じていることはどんなことですか。当てはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1) 道徳教育を学校経営の中心に位置付け、全教職員で取り組む指導体制づくり
- 2) 道徳教育の目標や道徳の時間の役割等基本的なことについての理解
- 3) 全体計画や年間指導計画等の適切な作成、改善
- 4) 各教科や特別活動、総合的な学習の時間における道徳教育の指導の充実改善
- 5) 児童生徒の悩みや心の揺れ等を含め考えていることの的確な把握や理解
- 6) 児童生徒が自ら成長を実感し、課題や目標を見いだせるようにする支援
- 7) 体験活動を生かす工夫
- 8) 他の教師等との協力的な指導や連携
- 9) 価値の主體的自覚を深める道徳の時間の指導の充実改善
- 10) 道徳的実践の指導
- 11) 児童生徒の道徳性の実態の把握と指導への生かし方
- 12) 道徳教育と生徒指導との関連
- 13) 学級、学校の環境の充実・整備
- 14) 家庭、地域社会との連携の工夫
- 15) その他

Q4 道徳の授業において、児童生徒がねらいとする道徳的価値を自分のこととして捉

えるために、どのようなことに重点を置いて指導していますか。当てはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1) 1年間を見通して、ねらいとする道徳的価値や主題構成を工夫する。
- 2) 道徳の時間に校長や教頭の参加、他の先生方との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力が得られるように工夫する。
- 3) 児童生徒の日常的な体験をはじめ、ボランティア活動、自然体験活動、地域の関係施設等との交流など、多様な体験活動を授業に生かす工夫をする。
- 4) 道徳の時間における指導過程の適切な構成方法を工夫する。
- 5) ねらいに含まれる道徳的価値の側面から、各教科や特別活動、総合的な学習の時間との関連を踏まえ、事前・事後の指導を工夫する。
- 6) 資料の分析、魅力ある資料の選定及び開発・活用等を工夫する。
- 7) 意外性、驚き、美しさ、神秘性、感動、疑問など児童生徒の問題意識を高める資料との出会いを工夫する。
- 8) 道徳の授業を進める上での多様な指導技術の習得を図る。
- 9) 児童生徒相互の考えを深めるため、意見を出し合ったり、比較したり、ディベートしたり、まとめたりするなどの話し合いの工夫をする。
- 10) 児童生徒の考えを、調整したり、揺さぶったり、深めたりする教師のかかわり方や、役割を工夫する。
- 11) 一斉、グループ、ペア、個人など、道徳的価値の内面化を促しやすい、その場に適した学習形態、場所（教室、特別教室、校庭等）を工夫する。
- 12) 児童生徒自身や友達の考えを明確にしたり、記録を残し自分の考えの変容を確認したりするために、心のノートや道徳ノート等の工夫をする。
- 13) 心のノートを活用し、児童生徒が自分を振り返り、自己を見つめる時間を工夫する。
- 14) ねらいとする道徳的価値の追求に向けて、児童生徒個々のよさや持ち味、考え方や見方を生かす場面の工夫をする。
- 15) 児童生徒の思考の流れを明確にし、見やすく、分かりやすく、興味をひくような板書の工夫をする。
- 16) ねらいに含まれる道徳的価値について、児童生徒の実態を事前にアンケートや作文、学習ノート等により把握し、導入段階でその提示の工夫をする。
- 17) 資料の時代背景や場面設定についての理解、登場人物の補説によって、児童生徒の生活経験では理解しにくい内容を正しく伝えるよう工夫する。

- 18) 音楽を聴いたり、歌を歌ったりして楽しい雰囲気を作ったり、目を閉じて気持ちを落ち着かせたり、グループエンカウンターをするなど、学習の雰囲気づくりを工夫する。
- 19) 直感や既習事項に基づき、道徳的価値の追求に見通しを持たせる工夫をする。
- 20) 教材の提示の仕方として、視聴覚機器（映像、音）や実物、紙芝居、ペープサート、写真、小道具、演示、観察、調査等による提示を工夫する。
- 21) ロールプレイや五感を働かせる活動や自分の考えを試してみるような体験的・動作的な活動や表現を工夫する。
- 22) 資料分析を踏まえ、資料のどの部分に焦点を当てるかを明確にして、発問構成を工夫する。
- 23) ねらいとする道徳的価値についての理解や判断、心情に気付かせ。考えさせ、感じ取らせる発問を精選する。
- 24) 児童生徒がねらいを達成するために、自分のこととして考えることのできる、本音や心情を表出することのできる中心発問を工夫する。
- 25) 児童生徒自身の行為や経験に目を向け、見つめ直すために、自分自身の直接体験を聞いたり、見たり聞いたりした間接体験を聞く発問を工夫する。
- 26) 資料中の登場人物に十分共感したり、主人公の行為を批判的に検討したりして、問題を追求し、児童生徒の多様な価値観を引き出す工夫をする。
- 27) 児童生徒の活発な発言を促すとともに、一人一人の思いや考えを大切にしながら、道徳的な価値の意欲的な追求を工夫する。
- 28) 本時の学習によって児童生徒が感じ、自分のもととして捉えた道徳価値について、教師の体験談・説話、友人からの手紙など、整理・まとめの工夫をする。
- 29) 今後の意欲化を図るために、児童生徒の生活に密着した資料や、感動や感銘を呼び起こす補助資料（児童生徒の作文、ノート、日記、家族からの手紙、地域の人々の録音・録画した声や映像）を提示し、整理・まとめを工夫する。
- 30) ことわざや格言、名言などから、整理・まとめを工夫する。
- 31) 終末段階において、心のノートを活用した整理・まとめを工夫する。
- 32) 板書を生かしながら、最後に大切な心の持ち方を中心に据えて、視覚的に整理・まとめを工夫する。
- 33) 本時の授業後の対応として、授業中の発言や様子を見て気になる児童生徒や、意見を上手く取り上げられなかった児童生徒への指導を工夫する。
- 34) その他

②調査結果の考察

【Q3「道徳教育の充実を図る上での悩みや困難を感じていること」調査結果と考察】
〈調査結果〉

回答数の高かった項目は、次のとおりである。

Q3-9)「価値の主體的自覚を深める道徳の時間の指導の充実改善」46.9%

Q3-6)「児童生徒が自ら成長を実感し、課題や目標を見いだせるようにする支援」45.2%

Q3-5)「児童生徒の悩みや心の揺れ等を含め、考えていることの的確な把握や理解」42.9%

その他、自由記述として次のような内容が記述されていた。

・身に付けた道徳性が児童生徒の生活に反映されづらい。現実の社会とのギャップをどのように考えて指導すればよいのか。

・学級における指導と全体計画の内容をどのように関連付けたらよいのか。

・道徳の時間が生徒指導の時間になってしまう。

・道徳の副読本がつまらなく感じてしまう。

・道徳の時間と特別活動の時間の関連を重視するべきである。

・自作資料の開発・活用が大切である。

・教材研究をするための時間が確保できない。

〈考察〉

Q3-9)「価値の主體的自覚を深める道徳の時間の指導の充実改善」が一番高い割合を示していることから、「道徳的価値の自覚を深める」ための指導方法の在り方について究明を強く望んでいることが分かる。このことは、「道徳的価値の主體的自覚を深める道徳授業」の効果的な指導方法の開発を本研究の中核主題と位置づけるべきことを示唆しているものと考えられる。

Q3-6)「児童生徒が自ら成長を実感し、課題や目標を見いだせるようにする支援」では、「価値の自覚」を児童生徒の成長として捉えていることから、そのための自己目標、自己課題の設定、その解決に向けての児童生徒への指導の在り方やかかわり方を探る必要があると考えられる。

【Q4「道徳的価値を自分のこととして捉えるために重点を置いている指導事項」調査結果と考察】

〈調査結果〉

回答数の高かった項目は、次のとおりである。

Q4-6)「資料の分析、魅力ある資料の選定及び開発・活用等を工夫する」62.9%

Q4-7)「意外性、驚き、美しさ、神秘性、感動、疑問など児童生徒の問題意識を高める

資料との出会いを工夫する」49.2%

Q4-10)「児童生徒の考えを、調整したり、揺さぶったり、深めたりする教師のかかわり方や、役割を工夫する」48.7%

Q4-23)「ねらいとする道徳的価値についての理解や判断、心情に気付かせ、考えさせ、感じ取らせる発問を精選する」45.2%

Q4-4)「道徳の時間における指導過程の適切な構成方法を工夫する」44.4%

Q4-24)「児童生徒がねらいを達成するために、自分のこととして考えることのできる、本音や心情を表出することのできる中心発問を工夫する」43.4%

Q4-22)資料分析を踏まえ、資料のどの部分に焦点を当てるかを明確にして、発問構成を工夫する」40.9%

その他、自由記述として次のような内容が記述されていた。

・葛藤を生む場の構成はどのようにしたらよいのか。

・他教科との関連を常に意識して指導している。

・書く活動を取り入れ、児童の心の動き等を把握したり、コメントをつけて返すことにより、自己肯定感をもたせる。

・学習したことを、実際の生活の中に生かせるように、また生かしているか点検しながら指導している。

・各教科と道徳とをどのように関連させればよいのか。

〈考察〉

重点を置いている一番割合の高かったのは、Q4-6)「資料の分析、魅力ある資料の選定及び開発・活用等を工夫する」であることから、児童生徒の道徳的価値の自覚を促すためには、資料分析、資料の選定(事前)が極めて重要であると捉えていることが分かる。Q4-7)「意外性、驚き、美しさ、神秘性、感動、疑問など児童生徒の問題意識を高める資料との出会いを工夫する」が二番目に高い割合を占めていることから、資料の選定とともに導入段階における資料との出会い、出会わせ方が価値の自覚を深めるためのポイントであると多くの教員が捉えていることが伺える。

Q4-10)「児童生徒の考えを、調整したり、揺さぶったり、深めたりする教師のかかわり方や、役割を工夫する。」では、道徳の授業の重要性が教師の児童生徒のかかわり方や、その指導性に大きくかかわっていると考えていることが分かる。

Q4-23)「ねらいとする道徳的価値についての理解や判断、心情に気付かせ、考えさせ、感じ取らせる発問を精選する」では、児童生徒の道徳的価値の自覚を深めるためには、やはり教師の発問が大切であることや、Q4-22)「資料分析を踏まえ、資料のど

の部分に焦点を当てるかを明確にして、発問構成を工夫する」やQ4-24)「児童生徒がねらいを達成するために、自分のこととして考えることのできる、本音や心情を表出することのできる中心発問を工夫する」と関連させて発問構成の重要性を挙げている。

発問の内容や構成の重要性は、Q4-4)「道徳の時間における指導過程の適切な構成方法を工夫する」が高い割合を示しているように、発問に重点を置くと同時にその前後の児童生徒の予想される内面の変化とのかかわりとの関連など、そのための適切な指導過程の在り方について、教員が重点であると考えていることが分かる。

これらを総合して考えるならば、資料分析を十分に行い、資料に含まれる道徳的価値の内容、関係を十分に考察し、その作業をもとに発問の工夫など授業構成の吟味を行うことが、効果的な教育方法の開発においては重要であるということができよう。

(2) シンポジウム発表内容

上記アンケートの分析および資料として提出された道徳授業指導案の分析から浮かび上がってきた課題の中で特に重要と思われる課題としてわれわれが注目したのは、以下の3つの課題である。

- ・ 価値の主体的自覚を目指す指導法に内在する困難さ
- ・ 複数の道徳的価値が混在する資料の資料分析の困難さ
- ・ 児童・生徒の発達段階を考慮した指導

本研究では、主にこれら3つの課題に対応する教育方法の開発を目指した研究が行なわれ、その研究の成果の一部は、平成21年度北海道教育大学旭川実践教育学会・第3分科会「道徳教育の効果的な教育方法」において発表された。上記3つの課題それぞれに関する提題内容の概要は以下の通りである。

第一の課題「価値の主体的自覚を目指す指導法に内在する困難さ」に関しては、この困難さを「子どもが自らの道徳的価値を自覚するよう指導することの難しさ」と捉えた上で、その困難を克服するための一方略として、「人間の弱さへの共感」を重視して道徳授業を構想することが提案された。

第二の課題「複数の道徳的価値が混在する資料の資料分析の困難さ」に関しては、複数の道徳的価値が混在した資料を道徳の授業において扱うためには、「授業の目的に照らして」重点を置く価値を選択すること、児童・生徒の発達段階を考慮して価値を捉え直すこと、価値の対立を解消(止揚)する方法の模索をうながすための「問い」を工夫すること、といった点に留意して資料分析を行なうことの重要性が提言された。

第三の課題「児童・生徒の発達段階を考慮

した指導」に関しては、札幌市立緑丘小学校の実践をピアジェ、コールバーグらの道徳性発達理論の観点から分析した結果が報告され、価値項目それぞれに関して発達段階を考慮した指導計画を立てることの必要性が提言された。

(3) 論文

本研究においては、アンケートおよび指導案分析から見出された3つの課題、「価値の主体的自覚を目指す指導法に内在する困難さ」、「複数の道徳的価値が混在する資料の資料分析の困難さ」、「児童・生徒の発達段階を考慮した指導の仕方」に関する考察を行った3篇の論文が著された。川崎惣一の論文、中川大の論文は、「価値の主体的自覚を目指す指導法に内在する困難さ」という課題に対応するための教育方法としての「共感に基づく教育」に関わる内容をもつ論文であり、共感に着目して道徳教育を構想することの重要性を哲学・倫理学、発達心理学の観点から考察したものである。

川崎論文は、共感に関する哲学・倫理学、発達心理学上の諸見解を踏まえながら考察をすすめ、共感を道徳的行動の主たる要因と捉えることができることを示し、子どもの共感する力を伸ばすための教育方法を構想するにあたっては、役割取得の力に注目することが重要であると論じている。

中川論文は、わが国における心情主義的道徳教育論に対する近年の批判においては、感情に基づく道徳論への顧慮が欠落しており、感情と道徳の関係に関する考察が等閑に付されていることを批判し、スピノザ、ヒュームらの感情を重視した道徳論のうちには、道徳教育を構想するにあたって参照すべき、感情と道徳性に関する有益な知見が含まれていることを指摘している。

千葉胤久の論文は、「複数の道徳的価値が混在する資料の資料分析の困難さ」という課題に対応するための教育方法に関わる内容を含む論文である。この論文は、資料分析などの授業準備段階において道徳的価値の基本的内容の明確化という作業を行なうことが重要であることを指摘し、その作業を十分に行なえるようになるためには哲学・倫理学的思考に親しんでおくことが有効であると主張するものとなっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 千葉胤久、道徳教育における倫理学の役割、北海道教育大学紀要 人文科学・社会

科学編、査読有、第 60 巻・第 2 号、2010、
1-13、
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/1112>

- ② 川崎惣一、道徳的行動の主たる要因としての共感について、北海道教育大学紀要人文科学・社会科学編、査読有、第 60 巻・第 1 号、2009、15-27、
<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/1027>

[学会発表] (計 1 件)

- ① 羽根田秀実、笠井稔雄、金山正彦、道徳教育の効果的な教育方法、平成 21 年度北海道教育大学実践教育学会研究大会第 3 分科会、2009 年 12 月 12 日、北海道教育大学旭川校

[その他]

ホームページ等

<http://www.hokkyodai.ac.jp/area/moral.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本間 謙二 (HONMA KENJI)

北海道教育大学・教育学部・学長

研究者番号：80111186

(平成 19 年度)

千葉 胤久 (CHIBA TANEHISA)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90333765

(平成 20～21 年度 平成 19 年度：研究分担者)

(2) 研究分担者

後藤 嘉也 (GOTO YOSHIYA)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50153771

羽根田 秀実 (HANEDA HIDEKI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：50180922

笠井 稔雄 (KASAI TOSHIO)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40400055

金山 正彦 (KANAYAMA MASAHIKO)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30455703

小林 宏明 (KOBAYASHI HIROAKI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00455700

佐山 圭司 (SAYAMA KEIJI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：80360965

中川 大 (NAKAGAWA MASARU)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：40237227

川崎 惣一 (KAWASAKI SOUICHI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30364988

三浦 務 (MIURA TSUTOMU)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：70509778

菅沼 聡 (SUGANUMA SATOSHI)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：50436060

篠木 芳夫 (SHINOBI YOSHIO)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：00133786

竹鼻 洋文 (TAKEHANA HIROHUMI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30400055

(3) 連携研究者

なし